

平成26年度 京都市予算案 事業概要

消防局

事務事業名	北消防署整備		
予算額	1,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	総務部 庶務課(212-6635)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 北消防署は昭和33年の竣工後、平成8年に耐震改修を実施したものの、主体構造の建築から50年以上が経過し、老朽化が著しく、長寿命化を図ることが困難な状況となっていることから、建替えを行う。</p> <p>《施設概要》 場所：北区紫竹下緑町87 建築年：昭和33年 竣工（852㎡） 昭和55年 増築（284㎡） 平成8年 耐震改修 建築構造：鉄筋コンクリート造2階建て 延べ1,136㎡</p> <p>[事業概要] 平成26年度は、建替えに向けて整備手法や施設規模等に関する基本計画を策定する。</p> <p>年次計画 平成26年度 基本計画 平成27年度 基本設計 平成28年度 実施設計 平成29年度 } 庁舎建設 平成30年度 } 平成31年度 庁舎建設, 竣工</p>			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

平成26年度 京都市予算案 事業概要

消防局

事務事業名	四条消防出張所移転整備		
予算額	19,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	総務部 庶務課(212-6635)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕 平成24年に祇園地域で発生した集団救急救助事故や増加する救急需要に対応するため、四条消防出張所を京都市立病院の敷地内に移転整備し、大型救急車を配置するとともに、医師との連携を確保し、救急体制の更なる充実強化を図る。</p> <p>≪施設概要≫ 場 所：中京区壬生仙念町30 京都市身体障害者リハビリテーションセンター内 建築年：昭和52年 建築構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上6階地下1階建て 延べ8,310㎡（うち消防出張所部分184㎡）</p> <p>〔事業概要〕 平成26年度は、整備に先立ち実施設計を実施する。</p> <p>移転先 中京区壬生東高田町1-2 京都市立病院敷地内</p> <p>年次計画 平成26年度 実施設計 平成27年度 庁舎建設 平成28年度 庁舎建設, 竣工</p>			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

平成26年度 京都市予算案 事業概要

消防局

事務事業名	文化財防火サマースクールの開催		
予 算 額	1,200千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	総務部 庶務課(212-6635)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕 市民の防火意識の向上には大人だけではなく、幼少期から切れ目なく正しい防火の知識や行動を呼び掛けていくことが重要である。 また、京都市内には世界文化遺産をはじめ、多くの国宝や重要文化財が存在しており、これらの文化財を火災等の災害から守るためには、社寺関係者のみならず、地域住民等に対しても、文化財の防火に関する知識や技術の向上、防火意識の高揚を図る必要がある。</p> <p>〔事業概要〕 小学校高学年の児童及び中学生を対象として、社寺関係者にも御協力いただき、文化財に関する講習や防災訓練等を行い、京都の文化財が火災からどのように守られてきたかを学ぶことで、防火意識の高揚及び文化財愛護思想を育むとともに、京都の貴重な文化財を火災から守り、未来へ継承していく担い手を育成する。</p> <p><実施内容> 対 象：小学校5年生から中学校3年生までの生徒 実施時期：夏休み期間中（8月上旬） 場 所：市内の文化財社寺等 内 容：文化財防火講習，消火器取扱訓練等</p>			
<p>〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕</p>			

平成26年度 京都市予算案 事業概要

消防局

事務事業名	消防団100人委員会U-35の推進		
予算額	1,000千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担当課	総務部 庶務課(212-6635)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 本市の消防団員の平均年齢は全国平均と比べ高く、大規模災害時等に現場活動の中心となる若手団員の不足が課題となっている。 平成25年度に実施した消防団100人委員会U-35では、35歳以下の若手消防団員による活発な議論が行われ、新入団員の確保や消防団活動等に係る様々な意見が出された。</p> <p>【事業概要】 消防団員有志による「充実強化実行チーム」を結成し、平成25年度に実施した消防団100人委員会U-35で出された意見に基づき、実際の事業として、企画・立案・実行する。</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

平成26年度 京都市予算案 事業概要

消防局

事務事業名	消防団水災対策器材整備		
予算額	3,900千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担当課	総務部 庶務課(212-6635)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>平成25年の台風18号による豪雨災害では、河川の越水などにより冠水した地域において、多くの消防団員が住宅への浸水防止活動や住民の避難誘導に当たった。</p> <p>今後もこういった豪雨災害の発生が懸念される中、消防団員の安全をこれまで以上に確保する観点から、ライフジャケットの追加配備が必要であった。</p> <p>平成25年度は11月補正予算において、河川の氾濫等による浸水深が50cm以上と予測される地域を管轄する消防団（11本部、146分団）に対し、緊急的にライフジャケットの追加配備を行った。</p> <p>【事業概要】</p> <p>平成26年度は、市内全ての消防団員にライフジャケットが行き渡るよう、ライフジャケット650着の追加配備を行う。</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			